

令和5年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組み

愛媛県立弓削高等学校

1 取組みの目的

- (1) 生徒・教職員が防災について正しく理解し、危機意識を高めるとともに、自他の命を守るために主体的に行動できる能力を身に付ける。
- (2) 南海トラフ地震による海岸部での津波の被害が想定されるなど、上島町の特徴ある地形や想定される災害について、正しく理解する。
- (3) 防災士資格取得者を中核教員として位置づけ、学校と教職員の災害時の役割を理解し、教職員の防災に関する資質を向上させる。
- (4) モデル地域内における他校種や地域と連携し、減災につながる社会づくりに貢献できる実行力を身に付ける。
- (5) 災害に関する専門家からの指導・助言により、実践的な知識を習得する。

2 取組みの内容

5月19日 第1回防災避難訓練(地震・火災訓練)

第1回防災避難訓練は、地震発生時に火災が起こったことを想定し、避難経路の確認や教員の配置訓練を行った。危機管理マニュアルにより、非常時における各班の役割を確認した。雨天のため避難場所が体育館に変更されたが、全員落ち着いて避難できた。



5月28日 上島町総合防災訓練

本校は明神地区避難所に指定されていることから、上島町が毎年実施している総合防災訓練に教職員が参加した。地域住民の避難の様子や自衛隊との連携(炊き出し訓練)を見学したが、実際に避難所となる場合は、高齢の方が多いため、高校生が貴重な戦力として期待される。救急隊による救命講習なども行われ、参考になった。



6月1日 3年生 HR活動、6月9日 2年生 HR活動

防災に関するHR活動を学年ごとに行った。3年生は学校周辺ハザードマップの確認や危険箇所を調べ、2年生は防災バックの中身の検討や、チラシでお皿を製作した。



7月12日 第2回避難訓練(不審者対応訓練)

第2回の避難訓練は、不審者の侵入を想定して実施した。あらゆる非常事態に対応できる防災マニュアルの再確認を行った。



8月21日～23日 防災先進的実践校視察

東日本大震災時に壊滅的な被害を受けた宮城県最南端の山元町を教職員が訪問した。太平洋沿岸で福島との県境に位置しており、原発からの距離は約50kmである。山元中学校、宮城県亘理高等学校、震災遺構として保存されている中浜小学校を視察し、震災時と震災後の様子から学んだことを本校生徒及び全教職員に伝えた。



10月13日 第3回防災避難訓練(地元小中学校との連携:弓削小学校、弓削中学校)

第3回防災避難訓練は、弓削小学校6年生及び弓削中学校3年生と合同で行った。連携しながら消火訓練や放水体験を実施するとともに、消防署員による「未来の消防団加入促進事業」の講話を受け、火災発生時は消防士だけでなく、地域の消防団も協力して消火活動を行っていることを知るなど、自主防災の大切さを学んだ。



10月31日 防災に関する講演会

弓削商船高等専門学校 伊藤武志教授をお迎えし、「離島における防災・減災について」講演会を開催した。防災マップを活用してグループワークを行い、学校周辺の危険箇所や避難場所について再確認することができた。



11月5日 防災に関する展示（文化祭）

文化祭に合わせて、先進校視察のパネル展示や非常持ち出し袋の展示を行い、保護者や県外の入学希望者に対して、防災に関する意識啓発を行った。非常持ち出し袋の中身として他にもあったら便利なものを記入してもらったアンケートも実施した。



12月9日 香川県防災センター見学、体験学習

消火体験、震度7の地震体験、風速30m/秒の暴風体験、煙避難体験をさせていただきました。



12月18日 第4回防災避難訓練(予告なし避難訓練、緊急地震速報受信システムの活用)

「シェイクアウトえひめ(県民総ぐるみ地震防災訓練)」を実施した。今年度初の予告なしの訓練であり、放送室に設置された緊急地震速報受信システムを活用して、授業中ではなく清掃開始時間に地震が発生し、津波がくるという想定で負傷者の避難補助も行った。



12月26日 広島県防災航空センター見学

1月に防災士養成講座を受講予定の2年生男子2名を含む生徒4名が、広島県防災航空センターの見学を行った。熊本地震の救助の様子を映像で見たり、防災ヘリコプターの中を見学させていただいたりして、災害活動をはじめとする消防防災航空活動を詳しく知ることができた。



1月12日 防災に関する公開授業

弓削商船高等専門学校 伊藤武志教授や学生の協力のもと、炭蓄電池を使った防災用街灯の設置、段ボールベッド・簡易トイレの組立てなどを行った。学校が実際に避難所となった場合のことを想定しながら実施することができた。



1月13・14日 防災士養成講座への参加

令和5年度愛媛県防災士養成講座を、教員1名と生徒3名が受講した。人口減少が進む上島町において、高校生の若い世代が自主防災の中核となる防災士の資格を取得したことは大変意義深く、非常変災時に活躍してくれることを期待する。



3 取組みの成果

今回の事業を通して、ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響で関わりが薄かった小中学校や弓削商船高等専門学校と連携が取れたことが大きな成果であった。今後も連携して地域防災活動に取り組んでいきたい。今年度は4回の防災避難訓練を実施し、それぞれ想定する災害の種類や実施方法を変え、あらゆる災害に対応できるようにした。中でも緊急地震速報受信システムを設置したことで、予告なしで授業以外の時間帯に災害が発生したことを想定した訓練ができ、緊張感を持って取り組むことができた。少人数の学校であるので、全員が無事に避難することにあまり時間は有さないが、海に面した位置に学校があり、地震発生後すぐに津波が到達する場合もあるので、より安全な場所に迅速に避難することが大切であると分かった。また、学校だけでなく地域で行われている防災訓練にも参加・見学するなどして、自助・共助の大切さを学ぶことができた。学校生活を送っている中で災害が発生する確率より、学校以外で災害に遭う確率の方が高いため、どこにいても安全に避難できるよう、家庭でも話合うきっかけができたことも良かった。

先進校視察では、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県山元町を訪問し、震災発生から復興を進めている現在までの様子をうかがうことができた。大震災から12年以上経過して徐々に記憶が薄れているところもある中、教訓を忘れることなく防災教育に取り組む姿を直接見聞きすることができ、災害の少ない地域でも油断することなく災害への準備が必要であることが分かった。また、震災遺構として当時のまま残されている建物などを見学することができ、自然災害の怖さを実感できたことは、今後起こりうる南海トラフ地震への備えに大いに役立つものと思う。

4 今後の課題

本事業の指定を受けたことで、防災について深く考えるきっかけにはなったが、今後も継続して防災・減災に関する意識を持ち続けて、実際に災害が起こった時にまずは自分の命を守り、周りの人も助けられるようにすることが求められる。本校は生徒の全国募集をしており、隣接する広島県の因島を含め町外出身の生徒が多く、教員も地元出身者はおらず地理的に詳しくない者が多い。防災マップ等をしっかり把握し、緊急時により安全な場所に生徒を誘導できるよう、マニュアルを常に頭に入れておく必要がある。また、少子高齢化が進んでいる地域であり、日頃から地域の方との関わりを持ち、顔が見える関係を築いて誰一人取り残されることがないようにしなければならない。学校が地震と津波災害の避難場所に指定されており、高校生の若い世代は怪我することなく避難所運営の最前線で活躍することも期待されている。今回は実施できなかったが、避難所運営の訓練なども今後実施していきたい。

今年度の研究指定に限らず、今後も継続して防災教育に取り組み、生徒が興味関心を持ち続けることが、減災に繋がっていくものと考え。防災士の資格を取得した生徒を中心に、生徒間で防災の話題を日頃の会話の中で出し合い、地域や家庭でも折に触れ話合うことが重要である。本校では、防災士の資格を持っている教員が多く、今後も機会があれば生徒にも資格取得を促すことで、生徒主体の防災に関するHR活動などができ、より興味を持つことができると思う。